新部門長就任挨拶

この度、各部門の執行交代により新部門長が決定した。これから各部門を支えていく彼らに、その意気込みを語って頂いた。（敬称略）

文化部門長

山村行範

平成七年度文化部門長を務めさせて頂くことになりました、山村行範です。今年度は生命科学部が新たに設置されたこともあり、かなり活気もありました。来年度はより多くの方に文化部門の活動を知って頂き、また興味を持って頂けるよう部門全体で協力し合っていきたいです。

これから一年間、より活発なものになるよう頑張ってゆきたいと思います。よろしくお願いします。

学術部門長

加藤英樹

学術部門の部門長を任されることになりました加藤英樹です。未だに部門長としての実感がわかず、右も左も分からずにいる今日この頃です。

さて、これから一年間学術部門は、「開かれた部門」を方針とし、学術系クラブだけでなく、他部門や委員会とのつながりをより一層強くしていきたいと思います。

なにぶんこのような重責に不慣れなためにご迷惑をおかけすることと思いますがご協力よろしくお願い致します。

体育会部門長

池谷　修

この度、平成七年度体育会部門長を務めさせて頂くことになりました、空手道部二年池谷修です。自分は、一年間部門長を務めるに当たり、体育会としての行動をとれる人物の重要性を第一の課題とし、より良い体育会を築くため、継承すべきものは責任を持って継承し、問題のある部分は刷新をはかり、大学を活性化できる組織にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

同好会会長

大野能之

薬学部、生命科学部、共に講義や実験で忙しく大変だと思いますが、そんな大学生活において、同好会での活動は仲間達と何かすることによって、楽しみ、笑う時間だと思います。

自分は何かの間違いで同好会会長に選ばれたのですが、選ばれた以上、自覚を持って頑張ろうと思います。そしてくだらない伝統はなくし、気楽で楽しい同好会にしたいと思います。

今年は新たに生命科学部も加わり各部門にも例年にない活気がみられたのではなかろうか。この活気が一時的なものにならないよう、新たに部門長になられた彼らのこれからの活躍に期待したい。

人の話を聞けよ、コラ

人間というのは本当によくしゃべる生き物である。年がら年中、ありとあらゆる場所で人間は会話をしている。もはや人間は会話なしでは生きていけない、と言い切れるだろう。

さて、会話をするとは一体どういうことなのか。自分の考えや言いたいことを相手に話すこと、では間違いである。この解釈は会話の本質の半分しか言い当てていない。たとえば、今ここに五人の人間が集まって話を始めるとしよう。五人の中の一人が話をするとき、残りの四人は聞き手となり、その人の話に耳を傾ける。もちろん話をする人間は次々と入れ替わっていくのだが、必ずそこには話し手と聞き手が存在している。つまり会話とは、「話すこと」と「聞くこと」の両方を指すのである。

この二つはどちらも会話には不可欠な要素であるにも関わらず、どうも「聞くこと」の方は軽視されがちだ。それは、人の話を聞くことなど何でもないことだと誰もが思っているからである。だがそれは違う。人の話を聞くのは決して簡単なことではない。

それは単に相手の話を正確に理解できるか、という自分自身のみの問題だけでは済まない。会話において、聞き手は話し手に対して決定的な影響力を持つ。もし聞き手が気乗りのしない表情や態度を観せれば、話し手はすぐに嫌気がさしてしまう。逆に聞き手が話し手に熱心に耳を傾け、上手なあいづちや返事をすれば、話し手は大いに勇気づけられる。そればかりか、聞き手は話し手に好意を持たれ、時には信頼を得ることもある。

なぜ聞き手がこれほどまで話し手に影響を与えるのか。それは、自分の話を真面目に聞いてくれる人を、誰もが必要としているからである。自分の話にじっと耳を傾けてくれる人を探し、日頃の愚痴や悩みを語ってみよう。そうやって話をするだけで、人間の悩みごとやストレスなどの大半は解消されてしまう。だから「聞くこと」の重要さを再認識してほしいのである。（柴田幸治）

動物慰霊祭

去る十一月三十日（水）に一一一講義室にて動物慰霊祭が行われた。

実習で動物を扱った学生はもちろんのこと、院生、教授など多くの人々が参加し、住職による読経が行われた後、焼香をした。

動物慰霊祭はその名が示す通り、実験や研究の犠牲となった動物達の霊を慰めるための行事である。この大学はもちろん、医療関係の大学に通っている学生にとって、動物実験は避けて通ることはできない。普段は忘れがちかもしれないが、医療の発展の陰には常に多くの動物達の尊い犠牲がある。

それらの動物達に感謝の念を表すためにも、今年参加しなかった人達はぜひ、来年の慰霊祭参加を心がけて頂きたいものである。

新英名決定の経緯

先月号でお伝えした通り、本学の新英文名が決定した。これは生命科学部の設立に伴い、これまでのTokyo College of Pharmacyであった大学英文名を改訂する必要がでたためであるが、新英文名制定までの経緯について先日、石戸良治薬学部長にお話を伺った。

今年の四月に生命科学部が設立し、両学部の教授も揃い一段落ついた七月に、学長と両学部長で構成される学部長会で英文名を検討しようという意見が出され、教授会にはかり、両学部長と選挙によって選ばれた各学部三名の教授によって構成される、東京薬科大学英文名検討会が発足した。

夏期休暇中に二回会議がもたれ、両教授会に中間報告を行って意見を聞いた上、検討会に持ち帰り、合意が得られたので学部長会を通じて学長が理事会に報告し、理事会で審議決定されたのが、皆さんご存じのように

Tokyo University of Pharmacy and Life Science

である。

これに伴い、教授会で各学部名が審議され、薬学部は

School of Pharmacy

に、また生命科学部は

School of Life Science

に決定した。

「大学名が決まったからにはその名に恥じぬように教育面、研究面でも実績を上げたい。また、環境もよく、熱心な先生方にも恵まれているのだから、両学部の学生諸君も生活にメリハリをつけて熱心に勉強して欲しい」というのが石戸薬学部長の御意見である。

美術部校外展

来る十二月十六日（金）から十八日（日）まで、東京薬科大学美術部校外展が開催される。会についての内容は、次の通りである。

日時　十二月十六日（金）～十八日（日）
午前十時三十分～午後五時三十分
会場　八王子市民センター七階展示室
交通　京王線北野駅北口下車徒歩一分

今年一年の美術部部員の活動の成果が展示されることになっている。気楽な気持ちで立ち寄ってみるのはどうだろうか。

駐車違反

自動車は便利だ。けもの階段を登らなくていいし、必ずイスに座ることができ、大きな荷物を簡単に運べる。しかし、自動車を利用するにあたって必ずついてまわるのが駐車場の問題だ。限られた東薬大の敷地内に全員が満足するほどの駐車場を確保することは不可能である。したがって学校の駐車場を借りれなかった人は、自動車を持っていても駐車できないはずである。

しかし実際には、学校近辺において多くの駐車違反車が見られる。なぜその場所が駐車禁止になっているのか考えたことがないのか、それとも他人にかかる迷惑など知ったことではないと思っているのか。オールAをとる知性があっても、常識がなければ近隣の住民にはだらしない学生だとしか思われまい。駐車場問題は日本全国で騒がれている問題であるが、まずは自分の足元から見つめてみるべきではないだろうか。

行事予定

十二月
七日（水）　後期学生大会
二十一日（水）　年内授業終了
二十六日（月）　冬季休暇開始
一月
六日（金）　冬季休暇終了
九日（月）　授業再開
二十日（金）　授業終了
二十五日（水）～三十一日（火）　後期試験
二月
一日（水）～二日（木）　後期試験

深夜おなかがすいたので、コーンフレークを食べることにした。冷蔵庫の中に牛乳がなかったので、代わりにヨーグルトをかけてみたら意外においしかった。

皆さんも、ぜひ一度はお試しを。

編集後記

Ψサントス「あのさぁ、十本ある足の指でさぁ、どの指と指の間を攻められるとぉ、いちばん感じると思う？？？」♂陳「はて……一体どこかのぉ？」♀サントス「親指と親指の間だ」（テトラド）

㈲「だろう」の方が好き♥（科歩ン）

♠私のマクマリーを返せー（あきこ）

Ω締め切りだというのに会長がいない編集長がいない会計もいない次期会長もいない。残されているのは未完の原稿のみ…。（XAZSA）

✝今日は、ズボンが、破けてしまいました。ふぅ。（宵闇月）

☝足りない。あと3行、あと3行なのにぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃ（甲）